

一般社団法人 日本臨床栄養代謝学会
第 10 回定時社員総会議事録要旨

日 時：2023 年 2 月 12 日(日) 13：00～15：00
場 所：AP 日本橋 F+G ルーム (WEB 会議システム「ZOOM」使用)
議 決 権：議決権のある社員総数 252 名
 総社員の議決権の数 252 個
 出席社員数 212 名(委任状による出席 160 名を含む)
 この議決権の総数 212 個

議 題：

I. 理事長挨拶

定款第 5 章第 21 条に則り、第 10 回定時社員総会を開催することが宣言され、定款第 5 章第 23 条に則り、議長は比企直樹理事長が務め、議事録署名は定款第 26 条に則り、比企直樹理事長のほか、上島順子代議員、大原寛之代議員が務めることになった。議長によって、定足数の充足が確認されたほか、開催場所と ZOOM での出席者との間で情報伝達の双方向性及び即時性が確保されていることを確認された。また、代議員各位に対して、2022 年 7 月 31 日に開催された 2022 年度第 1 回臨時社員総会での若手理事の新設をはじめとした重要議案の審議・承認に対して、謝辞が述べられた。

II. 第 38 回学術集會会長挨拶

小谷会長より、多くの先生方のご協力のもと、ハイブリット形式での開催形式で準備を進めていることが報告された。

会期：2023 年 5 月 9 日(火)、10 日(水)

会場：神戸コンベンションセンター(神戸ポートピアホテル、神戸国際会議場、神戸国際展示場)

III. 庶務報告

①会員動向

事務局幹事より、2022 年 11 月 30 日時点の会員動向および年会費納入状況について、報告された。

■2022 年 11 月 30 日現在 * 宛先不明 11 名含む

会員種別	2021 年 11 月 30 日	2022 年 11 月 30 日	増減
名誉会長	2 名	2 名	± 0 名
名誉会員	43 名	43 名	± 0 名
特別会員	64 名	70 名	+ 6 名
代議員	248 名	252 名	+ 4 名
学術評議員(代議員は	494 名	508 名	+ 14 名
正会員	21,417 名	22,435 名	+1,018 名
寄贈会員	8 名	8 名	± 0 名
総数	22,276 名	23,318 名	+1,042 名

■職種別

医師	4,738 名	管理栄養士	6,724 名	言語聴覚士	620 名
歯科医師	441 名	栄養士	37 名	歯科衛生士	121 名
看護師	4,161 名	臨床検査技師	624 名	診療放射線技	3 名

准看護師	1名	理学療法士	498名	その他*	563名
薬剤師	4,647名	作業療法士	140名	合計	23,318名

■2022年度分会費納入率 ※宛先不明・退会・自動退会含む

会員種別	納入者数	未納者数	納入率(2021年度)	
代議員	252名	1名	99.6%	(100%)
学術評議員	508名	8名	98.4%	(99.4%)
正会員	22,435名	1,432名	93.6%	(96.9%)
総数	23,195名	1,441名	93.8%	

②物故会員

名誉会員の名誉会員の奥井勝二先生(令和3年12月ご逝去)、名誉会員の大熊利忠先生(令和4年10月ご逝去)、名誉会員の武藤輝一先生(令和4年11月ご逝去)のご逝去を受け、黙禱が捧げられた。

③2022年度事業報告(別紙資料 参照)

2022年度事業報告が提出され、賛成多数により承認された。

④2023年度事業計画(別紙資料 参照)

2023年度事業計画が提出され、賛成多数により承認された。

IV. 会計関連事項(別冊 会計関連資料 参照)

尾花財務委員長より、2022年度貸借対照表、正味財産増減計算書、その他の財務諸表について説明がされ承認された。また第37回学術集会 飯島会長より、第37回学術集会が無事終了したことへの謝辞と収支報告がされた。河村真優美公認会計士より、独立監査人としての監査報告がされた。倉田監事より、理事会審議に先立って4名の監事で貸借対照表、正味財産増減計算書、その他の財務諸表と関係帳簿を照合し、会計帳簿書類及び財政状態について、いずれも適法かつ正確であることを確認し、理事会で承認されたことが報告された。続けて、2023年度会計・各種委員会の予算書(案)が提出され、承認された。

V. 日本医学会との協議を踏まえた学会名称変更に関する検討状況のご報告

JSPENは、1985年に日本静脈・経腸栄養研究会が発足、1998年には日本静脈経腸栄養学会として発展し、2013年に法人化した。2020年1月には、日本臨床栄養代謝学会(Japanese Society for Clinical Nutrition and Metabolism)と名称変更し、現在に至る。今回日本医学会より他学会と名称の近似が指摘されたこと、「JSCNM」の英文頭文字と「JSPEN」という通称に齟齬があるという点も混乱するとの声もあり学会名称の再考に至ったと説明された。

そして、理事会の信任を得た10名の理事による名称案の検討を経て、和文名称『一般社団法人 日本栄養治療学会』、英文名称『Japanese Society for Parenteral and Enteral Nutrition Therapy (JSPEN)』とする方向で検討を進めており、次回の社員総会に諮ることを検討していること、その前に広く会員に意見を求めること、これまでの理事会对応についての報告がされた。

VI. 各委員会・部会・WG・WT・PT 審議事項

【総務統括部門】

代議員・学術評議員選考委員会(大石理事)

- ・理事会推薦による代議員審査申請者1名が提出され、承認された。
- ・学術評議員選考者22名が提出され、承認された。

【認定・資格検討部門】

認定・資格制度委員会(福島理事、三原理事)

- ・NST 専門療法士書類審査合格者の取り扱いについて
不合格者は5年間書類審査を免除する旨、6年目以降は取得単位30単位を提出する旨を規程に定めることが承認された。
- ・2023年度以降の認定医・認定歯科医認定試験書類審査合格者の扱いについて
認定医・認定歯科医認定試験には、不合格者の書類審査免除がなかったため、5年間の書類審査合格期間を設ける旨、5年以降は新規受験となる旨を規程に定める旨が承認された。
- ・認定歯科医制度施行細則(案)の制定と資格停止条項の規定について
認定医制度と同様に資格の停止を規程に定める旨が承認された。また認定歯科医制度施行細則を定め、資格の復活条項を加える旨が承認された。

【学術部門】

学術集会実践支援委員会(犬飼理事)

- ・第40回日本臨床栄養代謝学会 学術集会の会期・会場変更について
会場との連携とニューノーマル時代での開催方法が説明され、下記の通り会期および会場を変更する旨が承認された。
会 期：2025年2月13日(木)、14日(金)→2025年2月14日(金)、15日(土)
会 場：神戸国際会議場・神戸国際展示場・神戸ポートピアホテル→パシフィコ横浜 ノース全館、アネックス

周術期、救急・集中治療専門管理栄養士制度タスクフォース(福島副理事長、斎藤理事、佐々木理事)

- ・周術期、救急・集中治療専門管理栄養士制度の概要について
本制度タスクフォースメンバーの福島副理事長、斎藤理事、佐々木理事より、施行に向けた概要説明、暫定申請の内容について説明がされ、新認定制度の施行について承認された。周術期、救急・集中治療専門管理栄養士制度は、臨床栄養代謝専門療法士の上部資格として、各9領域いずれかの領域を取得後に、周術期、救急・集中治療栄養管理において更に研鑽を積み、知識・技術を身につけるために取得申請を行う制度である。精度新設の目的は、栄養状態の改善を介して、周術期、救急・集中治療における治療効果を高め、患者のQOL向上を図ることであると説明された。
- ・3階建て認定資格制度制定に伴う運用について
各認定資格の「取得までの年数」、「認定期間」について、以下改定案が提出され承認された。

■NST 専門療法士

項目	現在	改定案
取得までの年数	実務経験5年以上	実務経験3年以上
認定期間	5年	5年
更新期間	5年	取得後3～5年以内
上部資格の申請資格	取得後、5年以上経過しており、1回以上の資格更新認定がされていること	更新手続き期間までに「更新要件」を満たす(見込み)場合は、一段階上部資格の同時認定申請が可能

■臨床栄養代謝専門療法士

項目	現在	改定案
認定期間	5年	5年
資格間の連結	「NST 専門療法士」、「臨床栄養代謝専門療法士」それぞれの更新が必要	「NST 専門療法士」と同時更新となり、認定期間が臨床栄養代謝専門療法士と統一
更新期間	5年	取得後3～5年以内
上部資格の申請資格	取得後、5年以上経過しており、1回以上の資格更新認定がされていること	更新手続き期間までに「更新要件」を満たす(見込み)場合は、一段階上部資格の同時認定申請が可能

■周術期、救急・集中治療専門管理栄養士

項目	現在	改定案
認定期間	5年	5年
資格間の連結	「臨床栄養代謝専門療法士」、「周術期、集中治療専門管理栄養士」それぞれの更新が必要	「臨床栄養代謝専門療法士」と同時更新となり、認定期間が周術期、集中治療専門管理栄養士と統一
更新期間	5年	5年

VII. 各委員会・部会・WG・WT・PT 報告事項

【総務統括部門】

総務委員会(飯島理事)

- ・新会員管理システム進捗報告会の実施について
多様化する学会事業と従来の事業の履歴情報の連携により、安定した各種情報のアーカイブ化、セキュリティの向上を目的に適宜新会員管理システム進捗報告会を実施したことが報告された。
- ・新会員管理システム稼働開始について
2022年12月26日正午より新会員管理システムを稼働させ、会員マイページをリニューアルしたことが報告された。
- ・新規入会キャンペーンの報告
新規入会キャンペーンにて、計680名の新規入会があり、平均年齢35歳、20代から40代の入会が全体の90%であったことが報告された。

広報委員会(名徳理事)

- ・2022年度の活動報告について
- ① JSPEN「Newsletter」発行事業として、2020年1月にVol. 1 No. 1を新規発行して以来、COVID-19の影響で発行できずにいたNewsletterを年間2回発行した。
 - ② 「JSPENメールニュース」配信事業として、事業の最新情報を「JSPENメールニュース」として月2回を基本配信として会員に対して一斉メール配信を行った。
 - ③ 「日本医学会分科会」事業として、第31回日本医学会総会で分科会の活動紹介をするポスターを制作した。

規約委員会(石井理事)

・2022年度の活動報告について

- ① より透明性を重視した適正な運用体制の構築のため、理事会で承認した資金運用規程を報告された。
- ② COVID-19 禍において感染リスク回避の観点から、自家用車、宿泊費の点を理事会で検討し旅費・謝金支給規程および運用規程の改訂を行ったことが報告された。
- ③ 支部制度を見直し、支部規則、支部学術集会細則、留意事項の整備を行ったことが報告された。
- ④ 学会をより安定した状態で長期的な視点でじっくり腰を据えて運営するため、2022年度第1回臨時社員総会に提出する定款・定款施行細則の見直しを行ったことが報告された。

将来構想委員会(鍋谷理事)

・2022年度の活動報告について

- ① 3部会独自の交流会の再開について
会員同士のつながりを深めるため、職能3部会独自の交流会を再開させたことが報告された。
- ② 若手理事枠の新設について
若手研究者が能力を発揮できる環境やサポート体制を構築するため、規約委員会と連携し、若手理事枠の新設に尽力したことが報告された。
- ③ 災害発生時の会員への対応について
災害救助法の発生時には、年会費免除や資格更新年の延長など救済策を検討することを規程に定めることが報告された。
- ④ 第41回(2026年)以降の学術集会開催候補地について
COVID-19が流行して以降、学術集会開催方法はハイブリット型が主となっている。5,000名規模の会場も検討できることから、2026年以降の学術集会は、大会長の意向を組む形での会場の確保・調整を進めることが報告された。

将来構想委員会 JSPEN-U45(鍋谷理事)

・2022年度の活動報告について

- ① How to 研究セミナー 2022 ～Basicコース～開催
初学者を対象とした研究セミナーをWEBにて全6回のシリーズで開催したことが報告された。
- ② 栄養関連データベース
特別なデータ入力を行わなくても電子カルテから紐づけてデータが自動抽出できる栄養関連データベースの作成を進めていることが報告された。
- ③ 栄養療法ポケットブックの企画・監修
JSPENガイドライン、JSPENコンセンサスブックの内容を踏襲した、初学者を対象とした栄養療法ポケットブックを作成し、JSPEN2023に発刊予定であることが報告された。
- ④ JSPEN-U45クラブの開設
JSPEN将来構想に関わる学会企画、臨床研究に積極的に参加する若手会員を増やすためU45クラブを設立したことが報告された。
- ⑤ 学術集会関連報告
第9回JSPEN 関越支部学術集会以U45セッションを開催したこと、第38回学術集会以U45プログラムを準備していることが報告された。

将来構想委員会 未来研究プロジェクト(鍋谷理事)

- ・未来研究プロジェクト 研究助成について
株式会社大塚製薬工場から研究助成を受け、「代謝栄養学に関する多施設研究、レジストリ構築」「代謝栄養学に関する基礎研究/臨床研究」など、JSPEN の未来に役立つ研究を支援する未来研究プロジェクトの概要が報告された。

倫理・利益相反委員会(鷺澤理事)

- ・委員会報告
REDCap プロジェクトの計画変更を承認したことが報告された。
- ・2023 年度の倫理審査
資料に基づき 2023 年度の倫理審査のスケジュールが報告された。
- ・倫理的配慮に関する啓発まんが
ウェブサイトに倫理的配慮に関する啓発まんがを公開したことが報告された。

支部統括委員会(三原理事)

- ・2022 年度支部学術集会の報告
2022 年度中に開催された各支部学術集会(7 支部)の収支報告がされた。本部が提供するプラットフォームを利用した支部においては黒字となっていることが報告された。
- ・2023 年度支部学術集会について
2023 年度支部学術集会(8 支部)の概要が報告された。
第 15 回北海道支部学術集会：2023 年 8 月 26 日／会長 澤田篤史(北海道医療大学)
第 9 回東北支部学術集会：2023 年 9 月 2 日／会長 海野倫明(東北大学大学院)
第 9 回関越支部学術集会：2022 年 12 月 18 日／会長 佐野 渉(上都賀総合病院)
第 14 回首都圏支部学術集会：2023 年 5 月 27 日／会長 宮澤 靖(東京医科大学病院)
第 17 回中部支部学術集会：2023 年 7 月 22 日／会長 森 直治(愛知医科大学緩和・支持医療学)
第 15 回近畿支部学術集会：2023 年 7 月 29 日／会長 名徳倫明(大阪大谷大学)
第 15 回中国四国支部学術集会：2023 年 9 月 9 日／会長 岡田憲三(市立宇和島病院)
第 14 回九州支部学術集会：2023 年 9 月 23 日／会長 福泉公仁隆(国立病院機構九州医療センター)
- ・2023 年度支部学術集会運営委託先コンペティションについて
共通のプラットフォームを構築し、年間を通して 8 支部会の学術集会の運営ができることを条件に、2023 年度支部学術集会運営委託先コンペティションを実施することが報告された。

【渉外部門】

国際委員会(福島副理事長)

- ・2022 年度の国際学会報告について
資料に基づき ESPEN、、PENSA をはじめ国際学会に参加したことが報告された。また ASPEN、ESPEN、FELANPE、PENSA と共同で Vienna Declaration に署名をしたことが報告された。
- ・今後の国際学会の予定について
資料に基づき ESPEN2023、ASPEN2023、PENSA2023 など予定していることが報告された。
- ・一部の主要コンテンツの英語版 JSPEN ウェブサイト作成について

海外に向けた JSPEN の情報発信や PR 活動を目的に、英語版 JSPEN ウェブサイトを作成していることが報告された。

国際委員会 nutritionDay 担当(鷲澤理事)

- ・2022 年度の活動報告について
ESPEN2022 の nDay National Coordinators SIG meeting 会議に出席し、各国との交流及び情報交換を行ったことが報告された。
nutritionDay プロジェクト(11 月 10 日)に参加したことが報告された。

保険委員会(鈴木理事)

- ・輸液の薬価改定について
不採算品再算定について、当学会からの意見書提出により、ブドウ糖注射液、生理食塩液、乳酸リンゲル液、酢酸リンゲル液、維持液類、酢酸維持液、TPN 用基本液、TPN 用総合アミノ酸製剤、肝不全用アミノ酸製剤、アミノ酸・糖・脂肪・電解質 等の成分の薬価が引き上げられたことが報告された。
- ・C 150-3 在宅半固形栄養経管栄養法指導管理料の対象となる栄養剤の選定について
対象となる栄養剤の基準(定義)を提出予定であることが報告された。
- ・ラコール NF 配合経腸用液 不採算品再算定に関する学会要望書について
今般の原材料高騰に伴い不採算の状態になっているため、厚生労働省に対して薬価を上げていただけるよう、本学会から不採算品再算定の要望書を提出したことが報告された。
- ・経鼻胃管の留置確認及び先端技術の評価についての要望書について
「経鼻胃管の留置確認及び先端技術の評価について」の要望書を厚生労働省に提出したことが報告された。

【教育・奨励部門】

教育委員会(千葉理事)：誌上報告

- ・NST 専門療法士必須セミナーの開催について
2022 年度はオンラインセミナーを 2 回開催したことが報告された。また 2023 年度は 3 月と 6 月にオンラインにて 2 回、9 月～10 月に 100 席前後の会場で、小規模な集合型開催を予定していることが報告された。
- ・JSPEN 臨床栄養代謝専門療法士(CNM)セミナーについて
2022 年度は、全 9 領域のオンラインセミナーを 2 回開催したことが報告された。また 2023 年度はセミナーへのご意見募集や講師公募をウェブサイトで実施し、全 9 領域のセミナーをオンラインにて 2 回開催を予定していることが報告された。

教育委員会 国際教育 WG(LLL)(高増理事)：誌上報告

- ・2022 年度の活動報告について
2022 年度はオンラインにて 2 回 LLL ライブコースを開催したことが報告された。
- ・ESPEN Diploma について
光永 幸代 先生(神奈川県立がんセンター：歯科医師)が ESPEN Diploma を取得されたことが報告された。

- ・2023年度 LLL ライブコースについて

2023年度は、新会員システムでの集金・配信運用が可能なことから、オンラインで3回の実施を予定していることが報告された。

教育委員会 新医師・歯科医師 WG(小山理事)：誌上報告

- ・2022年度の活動報告について

第1回：3月5日、6日にオンラインセミナー(修了者207名)、第2回：7月8日、9日を第59回日本外科代謝栄養学会学術集会時にオンラインセミナー(修了者179名)、第3回：11月12日、13日にオンラインセミナー(修了者216名)を開催したことが報告された。

- ・2023年第1回 NST 医師・歯科医師教育セミナーについて

第1回：3月11日、12日にオンラインセミナー(定員250名)を開催することが報告された。なお新会員管理システムの稼働に伴い、運営は外部業者に委託せず、学会事務局で行うことが報告された。

- ・2023年度第2回以降のセミナーについて

COVID-19の状況を考慮し、開催方法について検討していくことが報告された。

教育委員会 薬剤師部会(室井理事)：誌上報告

- ・第37回日本臨床栄養代謝学会学術集会での薬剤師部会パネルディスカッションについて

薬剤師部会パネルディスカッション「みんなで取り組む臨床研究～輸液栄養療法の有効性・安全性について科学的根拠を創出する～」を開催したことが報告された。

- ・第37回日本臨床栄養代謝学会学術集会での日病薬研修シールの配布について

配布対象は現地参加とアーカイブ配信を対象として交付を実施したことが報告された。

- ・第37回日本臨床栄養代謝学会学術集会での薬剤師部会会員の集い2022について

薬剤師会員を対象に、「薬剤師部会2022」を開催し、研究や取り組みの説明を行ったことが報告された。

- ・静脈カテーテル感染症等の輸液ルート使用にかかわる実態調査について

本学会会員の薬剤師を対象にカテーテル感染症、カテーテル閉塞、静脈栄養への薬剤師の関与などについて後ろ向きの調査を実施したことが報告された。

教育委員会 看護師部会(清水理事)：誌上報告

- ・看護師会員に向けたアンケート調査の実施について

看護師が臨床(現場)で実践している栄養についての課題や問題を明らかにするため、本学会会員の看護師を対象にアンケート調査を実施したことが報告された。

【認定・資格検討部門】

認定・資格制度委員会 認定医・指導医・認定歯科医制度(福島副理事長)：一部誌上報告

- ・認定医試験結果について

10月30日に施行された認定医認定試験にて、69名が合格し、認定医として認定した。

- ・指導医の認定について

審査を経て、申請のあった14名について指導医資格条件を満たしていることを確認し、指導医として認定した。

- ・2022年度 指導医 資格更新審査結果について
32名について更新条件を満たしていることを確認し、指導医として更新認定した。
- ・2022年度指導医終身認定移行者について
6名を終身指導医として移行した。
- ・2022年度認定医資格更新審査結果について
143名について更新条件を満たしていることを確認し、認定医として更新認定した。
- ・2022年度認定医終身認定移行者について
11名を終身認定医として移行した。
- ・認定歯科医試験結果について
2021年10月10日の認定歯科医認定試験について、5名が合格し認定歯科医として認定した。
- ・2022年度 認定歯科医資格更新審査結果について
11名について更新条件を満たしていることを確認し、認定歯科医として更新認定した。
- ・NST 専門療法士(歯科医師)から移行した暫定認定歯科医の対応について
下記2通りの方法で更新手続きを進めることが報告された。
①認定期間中に学術評議員以上の資格を有して「認定歯科医」に移行
②NST 専門療法士の復活・更新制度を利用し、「NST 専門療法士(歯科医師)」に移行
- ・2022年度 認定歯科医 終身認定移行者について
1名を終身認定歯科医として移行した。
- ・2023年度 認定試験について
10月22日に京都国際会館で開催予定し進めていることが報告された。

認定・資格制度委員会 NST 専門療法士制度(三原理事) : 誌上報告

- ・2022年度 NST 専門療法士認定試験結果報告について
受験申請者 944名(前年より+269名)のうち、受験者数は 864名(前年より+337名)であった。平均点は 69.33点と昨年の 63.85点を上回った。合否判定を審議した結果、751名を合格とした。合格率は 86.92%であった。
- ・2022年度 NST 専門療法士認定更新について
更新認定業務を実施し、更新対象者 1,628名、更新申請受付 1,407名 (内書類不備 532名/辞退 10名含む)、未更新者 221名、更新認定者 1,397名
- ・2022年度 NST 専門療法士復活申請について
23名の NST 専門療法士復活申請があり、22名を認定した。
- ・2022年度認定教育施設新規および更新について
更新対象 51施設のうち、44施設が更新の手続きを行い、引き続き認定教育施設として認定した。新規認定教育施設は 21施設あり、審査を経て認定された。
- ・学会の認める全国学会・地方会・研究会について
5単位：日本女性栄養・代謝学会、2単位：TMG NST 研究会を承認したことが報告された。
またオンライン開催について、無料での開催は認めないことが報告された。なお周知期間も含め、半年後より運用開始することが確認された。
- ・2022年度認定試験ワーキンググループについて
試験問題作成担当(試験官担当兼務)、試験問題選択担当(症例報告書審査兼務)として活動した。
- ・2022年 NST 専門療法士更新必須セミナーについて

集合型で1回、オンラインで2回の計3回実施した。

・2023年度 認定試験について

2023年度 認定試験も引き続き、COVID-19 対応で受験回避申請を受付けるが、施設長の嘆願書や病院での診断書の提出を必須とすることが確認された。また、2023年度からの受験回避申請書に3年間の有効期間を定めることが報告された。

・2023年度 NST 専門療法士更新必須セミナーについて

集合型で1回、オンラインで2回の計3回の実施を検討していることが報告された。

認定・資格制度委員会 臨床栄養代謝専門療法士制度(佐々木理事) : 誌上報告

・2022年度 臨床栄養代謝専門療法士暫定認定について

84件の申請があり、認定・資格制度委員会および本WGで審査し、82名を有資格者として認定したことが報告された。

NST 委員会(中瀬理事) : 誌上報告

・第37回学術集会 NST フォーラム 開催報告について

「わたしたちがつくる未来のNST」を開催したことが報告された。

・第38回学術集会 NST フォーラムについて

「切れ目のない栄養管理の実施を目指して ~NST の機能と地域医療への役割~」を開催することが報告された。

・NST 稼働認定施設申請について

今年のNST 稼働施設認定審査について以下の報告がされた。

(1)新規: 申請15施設、認定15施設

(2)更新: 申請対象395施設、更新認定393施設

・次回 NST 稼働施設 定点調査について

4月中旬頃に会員管理システムにて実施することが報告された。

【学術部門】

編集委員会(鍋谷理事) : 誌上報告

・「学会誌 JSPEN」年度別掲載状況について(2022年12月15日現在)

2021年度は61件、2022年度は77件が掲載された。

・「学会誌 JSPEN」投稿状況について(2022年12月15日現在)

投稿数は、2021年度は47件、2022年度は56件であった。

・論文投稿から採択までの日数について(2022年12月15日現在)

2021年度は採択数25、最短日数26日、最長日数441日、採択までの平均日数は158日であった。

2022年度は採択数18、最短日数53日、最長日数326日、採択までの平均日数は134日であった。

採択決定後、6カ月以内に掲載している。

・「学会誌 JSPEN」J-STAGE 公開状況について(2022年12月15日現在)

Vol. 3 No. 3 2022年1月25日 公開 / Vol. 3 No. 4 2023年3月30日 公開

Vol. 3 No. 5 2023年5月26日 公開 / Vol. 4 No. 1 2023年8月25日 公開

Vol. 4 No. 2 2023年11月6日 公開

・投稿規程の改定について

投稿研究論文の倫理審査の有無について規程を追加したことが報告された。また症例報告における倫理的配慮の記載についてもカバーレターに記載する規程を追加したことが報告された。

- 本学会著作物に対する転載許諾申請について
2022年度は申請数16件、うち許諾数13件であった。
- 編集業務一部外部委託について
これまで組版やJ-STAGEへの登載業務の一部の編集業務を大村印刷(株)依頼していた。契約更新年となり、査読事務など編集業務の外部委託について検討した結果、他学会でも実績のある中西印刷(株)編集業務の外部委託をすることを決定した。
- 優秀査読者賞 受賞者選出について
査読の回数、内容、期限などの評価により本委員会でも選考し、以下の1名を受賞者として選出した。
野崎 礼史(水戸済生会総合病院)

学術集会実践支援委員会(犬飼理事) : 誌上報告

- 第40回日本臨床栄養代謝学会 学術集会のコンベンション選定について
第40回日本臨床栄養代謝学会学術集会(比企直樹会長)のコンベンション選定のためのコンペティションを開催し、株式会社サンプラネットを選定したことが報告された。

AWARD 選考委員会(山中理事)

- 大柳治正記念学術振興アワード選考について
選考基準に基づき、下記受賞者と2名の関連講演者を決定したことが報告された。
受賞者：倉田なおみ(昭和大学薬学部 社会健康薬学講座 社会薬学部門、臨床薬学部門 臨床栄養代謝学部門)
関連講演：名徳倫明(大阪大谷大学 薬学部実践医療薬学講座)
鷺澤尚宏(東邦大学医療センター大森病院 栄養治療センター)
- 小越章平記念 Best Paper in The Year 選考について
選考基準に基づき、下記論文に決定したことが報告された。
受賞者：本告正明(大阪急性期・総合医療センター)
タイトル：Comparison of synbiotics combined with enteral nutrition and prophylactic antibiotics as supportive care in patients with esophageal cancer undergoing neoadjuvant chemotherapy: A multicenter randomized study
- YOUNG INVESTIGATOR AWARD 2022 について
候補者が揃い次第、選考基準に基づき、受賞者を決定する。また昨年度までは応募対象年齢を「40歳以下の会員」としていたが本年度より JSPEN-U45 の「若手会員」の年齢に合わせて「45歳以下の会員」と変更したことが報告された。
- JSPEN2022 フェロウシップ賞選考について
JSPEN2022において、選考基準に基づき、下記の受賞者を決定した。
受賞者：高山はるか(東京大学大学院医学系研究科 侵襲代謝・手術医学講座)
タイトル： β -hydroxy- β -methylbutyrate (HMB) 添加静脈栄養が腸管構造・免疫に及ぼす影響
- JSPEN スカラーシップ賞 2022 受賞者について
選考基準に基づき、下記の受賞者を決定した。
受賞者：鶴岡 裕太(千葉大学医学部附属病院)
タイトル：胎児期に始まる子どもの健康と発達に関する調査(Chiba study of mother and child)

Health:C-MACH)から得られた生後3.5年間の児の腸内細菌叢の変遷

- ・AWARD受賞者のウェブサイト公開について
若手会員の目標となるよう、各AWARD受賞者をウェブサイトにて公開したことが報告された。

【臨床栄養推進部門】

ガイドライン委員会(小谷理事)

- ・前回理事会・定時社員総会以降の活動報告について
Mindsで行うCQと推奨の作成の進捗状況について、パブリックコメントの募集は完了し、各CQのエビデンス収集および評価の統合も概ね完了であることが報告された。
- ・今後のスケジュールについて
現在相互査読に進んでおり、2023年11月の出版を目指していることが報告された。
- ・SR&MA論文のアクセプトについて
CQ3で行ったシステマティックレビュー&メタアナリシスの論文がClinical Nutritionにアクセプトされたことが報告された。

臨床栄養コンセンサス検討委員会 9領域WT(犬飼理事) : 誌上報告

- ・JSPENコンセンサスブックの発刊について
2022年5月23日に「JSPENコンセンサスブック①がん」を発刊したことが報告された。また「JSPENコンセンサスブック②肺・肝・腎」を第38回学術集会で発刊する予定で進めていることが確認された。

臨床研究委員会(飯島理事) : 誌上報告

- ・2022年度の活動報告について
新たにRefeeding症候群サーベイランスプロジェクトを立ち上げたことが報告された。

臨床研究委員会 P 001 : REDCapプロジェクト(飯島理事) : 誌上報告

- ・2022年度の活動報告と登録の終了について
症例登録は2022年12月31日で終了し、現登録済症例において、本事業の目的である本指導管理料算定患者の実態把握と転帰等の検討を行い、次期に継続することが報告された。

臨床研究委員会 P 003 : 誤接続防止対策プロジェクト(飯島理事) : 誌上報告

- ・令和4年度厚生労働科学特別研究事業コネクタ関連班会議
経腸栄養分野の小口径コネクタ製品の切替えに係る課題把握及び対応策立案に向けた研究(長尾班)に参加し、本学会の分担として新規コネクタの海外情報の収集・分析、およびミキサー食注入基礎実験を担当した。収集したデータを発表し、厚労省への提言のまとめに参加する。
- ・旧コネクタ例外使用に関しての意見について
経腸栄養分野の小口径コネクタ製品の切り替えに係る課題において、旧規格製品の使用が考慮される候補の病態ならびに状態像に関する意見を本プロジェクトでまとめ、厚生労働大臣に提出したことが報告された。

臨床研究委員会 P 011 : 短腸症候群アンケートプロジェクト(千葉理事) : 誌上報告

- ・アンケート実施について

2023 年度に本学会加盟施設に対しアンケートを実施短腸症候群に関するアンケート調査を行うことが報告された。

臨床研究委員会 P 012 : Refeeding 症候群サーベイランスプロジェクト(飯島理事) : 誌上報告

・Refeeding 症候群サーベイランスプロジェクトについて

Refeeding 症候群に関する、大規模なサーベイランスを実施するプロジェクトとして設立された。本研究開始時点での RFS のリスク判定法と診断基準の決定、倫理委員会への提出、Refeeding 症候群のサーベイランス研究の実施に順次取り組む予定であることが報告された。

VIII. 第 41 回学術集会会長選出

第 41 回学術集会会長に、鈴木理事が立候補され、賛成多数で選出された。

IX. 第 39 回学術集会会長挨拶

鷺澤会長より、ハイブリット形式での開催形式で準備を進めていることが報告された。

会期：2024 年 2 月 15 日(木)～16 日(金)

会場：パシフィコ横浜 ノース全館、アネックス

X. 第 40 回学術集会会長挨拶

比企会長より、会期および会場変更についての謝辞が述べられ、準備状況について報告がされた。

会期：2025 年 2 月 14 日(金)～15 日(土)

会場：パシフィコ横浜 ノース全館、アネックス

XI. 理事選挙結果報告

代議員 252 名に対して 1 月 6 日(金)に理事選挙書類を発送し、1 月 23 日(月)の消印有効を期日として理事選挙を実施したこと及び 1 月 28 日(土)に選挙管理委員会を学会事務局会議室で開催し開票作業を行い、有効数 227 票、無効数 9 票、投票総数 236 票であったことが報告された。

XII. 選挙理事の選任

議長は、定款第 16 条第 1 項の規定に基づき、本社員総会終結をもって理事全員の任期が満了することを説明し、これに伴い下記の理事選挙当選者 10 名(理事選挙立候補届出順・敬称略)を理事として選任したいと述べたところ、賛成多数により、下記 10 名が理事として選任された。

遠藤陽子、小山 諭、竹内裕也、廣野靖夫、伊藤明彦

二村昭彦、清水孝宏、亀井 尚、増本幸二、森 直治

XIII. 信任理事の選任

議長は、定款施行細則第 11 条第 2 項に基づき本社員総会で信任を受ける選挙理事 10 名及び同細則第 12 条第 2 項に基づき本社員総会で理事候補者となる推薦理事 3 名を合わせた下記の合計 13 名(五十音順・敬称略)を理事として選任したいと述べたところ、賛成多数により、下記 13 名が理事として選任された。

石井良昌、犬飼道雄、大石英人、尾花和子、斎藤恵子、高増哲也、千葉正博

鍋谷圭宏、比企直樹、三原千恵、名徳倫明、森みさ子、山中英治

XIV. 理事予定者会議における理事長予定者の選出報告

選挙理事予定者、信任理事により理事予定者会議が開催され、理事長予定者に比企直樹氏が選出されたことが報告された。

XV. 理事長予定者による副理事長予定者の指名報告

比企理事長予定者の指名により副理事長予定者に鍋谷圭宏理事が指名されたことが報告された。

XVI. 推薦理事の選任

議長は、定款第13条第4項第2号並びに同施行細則第18条第1項及び第2項に基づき市川大輔代議員が推薦理事予定者として指名されたことを報告し、この者を理事として選任したいと述べたところ、賛成多数により、理事として選任された。

XVII. 若手理事の選任

議長は、定款第13条第4項第3号並びに同施行細則第18条の2第1項及び第2項に基づき下記の4名(五十音順・敬称略)が若手理事予定者として指名されたことを報告し、これを理事として選任したいと述べたところ、賛成多数により、下記4名が理事として選任された。

奥川喜永、堤 理恵、永野彩乃、光永幸代

XVIII. 監事の選任

議長は、定款第16条第4項の規定に基づき本社員総会終結をもって田妻進監事の任期が満了すること、定款第16条第4項及び第5項の規定に基づき本社員総会終結をもって花崎和弘監事の任期が満了することを説明し、これに伴い、下記2名(五十音順・敬称略)を監事に選任したいと述べたところ、賛成多数により、下記2名が監事として選任された。

花崎和弘、福島亮治

XIX. 特任顧問の選任

議長は定款第18条第2項に基づき、下記2名(五十音順・敬称略)を特任顧問に選任したいと述べたところ、賛成多数により承認され、下記2名が特任顧問として選任された。

佐々木雅也、平田公一

以上の選任手続きを経て、新理事会(理事・監事・特任顧問)の構成員が決定された。

理 事 比企直樹(理事長予定者)、鍋谷圭宏(副理事長予定者)、石井良昌、市川大輔、
伊藤明彦、犬飼道雄、遠藤陽子、大石英人、奥川喜永、尾花和子、亀井 尚、
小山 諭、斎藤恵子、清水孝宏、高増哲也、竹内裕也、千葉正博、堤 理恵、
永野彩乃、廣野靖夫、二村昭彦、増本幸二、光永幸代、三原千恵、名徳倫明、
森 直治、森みさ子、山中英治

監 事 倉田なおみ、土岐祐一郎、花崎和弘、福島亮治

特任顧問 佐々木雅也、平田公一

XX. 名誉会員・特別会員推戴 表彰

出席された推戴者に比企理事長より推戴状が授与された。当日ご欠席の先生には、推戴状と記念品をお送りした。

<名誉会員>

葛谷雅文(名古屋大学 未来社会創造機構)

田中芳明(久留米大学医学部附属病院 医療安全管理部)

西口幸雄(大阪市立総合医療センター)

花崎和弘(高知大学医学部附属病院)

<特別会員>

磯崎泰介(いそざきファミリークリニック)

荻野 晃(トーカイ薬局 中津川市民病院前店)

坂元隆一(すずかけセントラル病院 リハビリテーション科)

櫻井洋一(天王台消化器病院 消化器外科)

松原 肇(北里大学 薬物治療学Ⅲ)

三木誓雄(八潮駅前在宅クリニック)

水野文夫(城西大学 薬学部 医療栄養学科)

山口 恵(もりえい病院 薬剤部)

山下芳典(広島国際大学 看護学部看護学科)

(五十音順・敬称略)

以 上

2023年2月12日(日)